

石川県専修学校／法務省告示日本語教育機関

# 令和4年度 自己点検・自己評価報告書

(2023年1月実施)

学校法人アリス国際学園

専門学校アリス学園（金沢校）

専門学校アリス学園加賀校

アリス日本語学校横浜校

# 目 次

1	学校の教育目標	・・・P1
2	本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	・・・P1
3	評価項目の達成及び取組状況	・・・P2～9
	1. 教育理念・目標	
	2. 学校運営	
	3. 教育活動 / 4. 学修成果	
	(①介護福祉学科、②国際ビジネス学科、③日本語学科、④加賀校、⑤横浜校)	
	5. 学生支援	
	6. 教育環境	
	7. 学生の受け入れ募集	
	8. 財務	
	9. 法令の遵守	
	10. 社会貢献・地域貢献	
	11. 留学生の在籍管理・生活指導	
4	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	・・・P9～10

## 1 学校の教育目標

(学則より抜粋)

- ・「文化・教養専門課程」では、国際化時代に通用する語学力と実務知識、幅広い教養を身に付けた人材を育成する。
- ・「商業実務専門課程」では、専門的なビジネススキルの習得を通じ、社会人としての総合的な能力と実務知識、幅広い教養を身につけた人材を育成する。
- ・「教育・社会福祉専門課程」では、介護福祉の学問を通じて、実務知識と幅広い教養を身につけた人材を育成する。

## 2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### (1) 教育の質の保証

- ・毎年、情報収集や前年度の反省を行いカリキュラムの検討・未来教育の実践を行う
- ・各分野の資格取得率・進学・就職率が前年度実績及び全国平均を上回る
- ・各校の日本語学科そして専門課程の法務省より適正校としての認定を継続して受ける

### (2) グローバル教育と学生への総合支援を行う

- ・グローバル教育とは何かを明確化し実践する。  
学生の総合支援の範囲を明確化する。
- ・オンライン教育の実践をする。(日本語教育・介護教育・日本語教師・特定技能)
- ・海外のベトナムとカンボジアの学校の計画を立て運営し、毎年各学校 50 名の修了生を作り、これまでの投資額の回収と黒字化を達成する。

### (3) 経営の安定

- ・定員の充足、定員増、新規コースの開設等により収益の増加を実現することで、コロナ禍における損失をいち早く取り戻し、横浜校を専門学校化する。

### 【令和4年度重要事業】

- 1 各日本語教育機関の適正校化対策
- 2 事業拡大に向けたリーダーの育成及び人員体制の整備
- 3 専門課程（特に金沢校・加賀校の国際ビジネス学科）の定員充足  
※令和4年度日本語教育機関の卒業生は、さらに減少となる見込み
- 4 各事業におけるDX推進  
(広報だけでなく、教育面においてもオンライン教育の充実、教育の質の改革を行う)
- 5 学園開校30周年記念事業の検討

### 3 評価項目の達成及び取組状況

【評価基準】 4：達成している 3：概ね達成している 2：やや達成 1：改善が必要  
青網掛け…昨年度より評価が上がったもの 赤網掛け…昨年度より評価が下がったもの

#### 1. 教育理念・目標

評価

1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
1-2	学校における職業教育、その他の教育指導等の特色は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

「人々の幸せを追求し生きる力を育む」という学園理念のもと、介護福祉学科、国際ビジネス学科、日本語学科の3学科にて、力強い人づくり・グローバル教育・地域社会での貢献を行っている。また、社会の変化に合わせ、ICT化をはじめとする新たな取り組みとともに、社会人を含む日本人学生・留学生のキャリア教育を柔軟に行っている。

また、令和4年度よりこれまで介護福祉学科でのみ実施していた教育課程編成委員会を国際ビジネス学科でも開催し、外部・諸関係者からの声・ニーズを取り入れることとしている。

#### 2. 学校運営

評価

2-1	運営方針が策定されているか	4
2-2	事業計画が策定されているか	4
2-3	運営組織や意志決定機能は確立され、効果的なものになっているか	4
2-4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
2-7	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

学園の運営方針並びに事業計画については、毎年理事会・評議員会に諮り策定している。学校法人設立から30周年を迎え、学園としての運営組織や情報公開の体制は年々改善され確立して来ている。令和5年度春のHP改定に向けて令和4年度は準備を進めることができた。現在は世代交代を進めながら新たな時代にしなやかに対応できる個々の教員の研修をはじめ、昨年度に引き続きICTを取り入れた業務の効率化や連携・コミュニケーションの活性化を進め、学内にDXの意識を浸透させている。

#### 3-①. 教育活動（介護福祉学科）

評価

3-1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3-2	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ち、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
3-3	関連分野の施設・業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
3-4	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
3-5	授業記録簿等を備え、実施した授業を適切に記録・管理しているか	4
3-6	理解度、到達度の測定と評価を適切に行い、その結果を適切に学生に伝えているか	4
3-7	授業評価の実施・評価体制が整備され、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
3-8	キャリア教育・職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
3-9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-11	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-12	教職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

令和3年度に引き続き、コロナウイルス感染症の影響により、介護実習での受入施設の減少や急な受入中止がありつつも、特例措置（介護実習Ⅱの条件がなくても実習可）にて年3回の実習は無事終了することができた。今後も、学生の支援先への実習等も視野に入れ、実習先を確保したい。

介護福祉士国家試験対策については、1年次には学力評価試験と全国統一模試を実施し、国家試験とはどのようなものなのかを実際に問題を見て解くことで意識づけを行った。また、2年生と一緒に冬休みに複数回登校し、それぞれの学生の現状と成績を把握することを行った。

2年次は、月1回の模擬試験（年2回の全国統一模試、学力評価試験含む）を実施し、学内の採点ソフトを使用し、即日成績を抽出し、学生と面談をしながら成績の向上に努めた。また今年度から対策授業を30コマ増やして、より国家試験対策を強化した。また授業の空き時間や放課後、長期休暇中も留学生に対しては、学習の時間とし、毎日勉強することの習慣化をつけさせることで、「自律学習ができる」学生を育成することを意識して指導を行った。また、今年の1年生よりノートパソコン（Chromebook）を導入。実習日誌等の書類をはじめ、日常の授業においてもICTを活用することができた。実習施設との大きなトラブルはなく、スムーズに実習が執り行われたと思う。

教員講習会については、専任1名が修了することができた。もう1名の専任についても、今年度は3科目の受講を履修し、令和5年度内には修了する予定となっている。

**4-①. 学修成果（介護福祉学科）**

**評価**

4-1	進学率・就職率の向上が図られているか	4
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	3
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

令和4年度は2年生で2名、1年生で1名の退学者がおり、退学率0%には至らなかった。1名は入学後に発覚した健康上の問題であったため仕方がない側面はあった。残り2名については、学力の問題が主な原因であり、入学選考の基準の見直し並びに入学後の個別面談や個別ケアの進め方を改善していきたい。

卒業生並びに就職先とのコミュニケーションは例年通り取れており、就職先の広報誌や新聞記事等にて活躍する姿を確認している。令和4年度第35回介護福祉士国家試験の結果は現時点（1月末）では未確定ではあるが、自己採点では令和3年度の77.4%を上回る結果が出る見込みである。

**3-②. 教育活動（国際ビジネス学科）**

**評価**

3-1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3-2	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ち、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
3-3	関連分野の施設・業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
3-4	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
3-5	授業記録簿等を備え、実施した授業を適切に記録・管理しているか	4
3-6	理解度、到達度の測定と評価を適切に行い、その結果を適切に学生に伝えているか	4
3-7	授業評価の実施・評価体制が整備され、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
3-8	キャリア教育・職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
3-9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-11	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
3-12	教職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

令和3年度より引き続き、特定技能の在留資格にも対応できるカリキュラム・シラバス作りを行ったことで、「宿泊」「外食」「飲食物品製造」の特定技能試験の受験をし、各分野で合格者を出すことができた。さらに、次年度からは就職活動に先立って技能試験合格ができるよう1年次より対策授業を展開し7名の合格者が出た。就職支

援においては、就職支援センターが本格的に可動できた事で個々の学生とじっくりと向き合うことができた。また、コロナ禍ではあるが政府の旅行支援の緩和により宿泊業の稼働が上がり、ホテルで就職を目指す者のインターンシップを受け入れて頂くことができ、内定に繋がった。今年度のインターンシップでは学生の希望とマッチングする事ができ、全員が取り組むことができるなど、本年度は新規インターンシップ先の開拓、会社説明会の実施が実を結んだ結果となった。

また、今年度は全員がノートパソコンを持参し、Google クラスルームで授業資料や問題の配信を行ったことで、学生の理解度がすぐに反映されるようになり成績管理や授業運営がしやすくなった。コピー等の資源の節約にもつながっている。教職員の能力開発については、コロナ禍でもあり、海外研修は実施できなかったが、オンライン上で外労士の受験、食品衛生管理責任者講習、外国人雇用協議会、次世代型キャリア教育（ENAGEED）のセミナーに参加したりして自己研鑽を行うことができた。

#### 4-②. 学修成果（国際ビジネス学科）

評価

4-1	進学率・就職率の向上が図られているか	4
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	4
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

<現状・具体的な取り組み/課題・今後の改善方策/特記事項>

就職率については、2023年1月末現在で、就職希望者4名/10名が内定をもらい、順次在留資格変更申請を進めている。そのうち3名が10月までに県内企業の内定をもらい、石川県内就職の奨学金をもらうことができた。現在も就職活動を行うと同時に特定技能試験「外食」を取得しての内定見込みや、「航空」分野に合格して面接待ちの学生のみとなった。また、進学希望者であった1名は帝国大学への編入が決まっている。

今後もアルバイト時間のルール厳守、税金・保険・年金の支払いの指導を徹底して行い、卒業時に就労系在留資格への変更がスムーズにできるよう進めていきたい。また、過去の卒業生の就職後のフォローについても行っており、就職試験の面接への同行等、転職のサポートも行っている。

#### 3-③. 教育活動（金沢校・日本語学科）

評価

3-1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3-2	キャリア教育の視点に立ち、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
3-3	授業記録簿等を備え、実施した授業を適切に記録・管理しているか	4
3-4	理解度、到達度の測定と評価を適切に行い、その結果を適切に学生に伝えているか	4
3-5	授業評価の実施・評価体制が整備され、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
3-6	キャリア教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
3-7	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-8	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-10	教職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

<現状・具体的な取り組み/課題・今後の改善方策/特記事項>

令和4年度はコロナ禍で入国ができていなかった学生の入国が可能となり、夏前には学生数が140名近くとなった。5月頃に新生受け入れ、6月に入学式を実施し、1年次からの生活指導授業に取り組んだ。具体的な内容としては、資格外活動管理の強化にも取り組み、毎月の家計簿記入、携帯アプリによる家計簿管理、給料明細の定期的な確認と保管等にも各クラスで取り組みを進めた。ゴミ、清掃道具等、寮をきれいに使用し、日本の生活ルールを意識させるような取り組みや授業も同時進行でおこなった。ゴミ・掃除指導については、4月期生・10月期生約3か月取り組みをしているが、その後の取り組みを定期的にできていないため、今後は指導後も3か月置きくらいに振り返りとしての指導を入れていきたい。

教材では、アスク出版のオンライン教材の活用を各クラスが行った。具体的には、朝補講の自主学習用、入国時期のズレによる進度のズレのカバーのためのクラスでの活用、長期休暇の課題等のために使用した。非常勤講師と専任教員で、オンラインツールの使用頻度や運用・活用知識に開きがあるため、その点をカバーできるような研修会、勉強会を積極的に行っていく必要がある。令和5年度より、タブレット端末を使用したクラス編成を一部行

い、今後の本格的な導入に備える。現在使っている紙媒体テキストから、オンラインを活用した電子教材への移行を進めることで、効率化と学習効果の向上を達成するつもりである。

#### 4-③. 学修成果（金沢校・日本語学科）

評価

4-1	進学率・就職率の向上が図られているか	3
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	3
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

#### <現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

コロナによる入国の遅れによって、R4 年度卒業生は 7 名のみであり、1 年進学の修了生は 29 名であった。学内の国際ビジネス学科と連携し計画的に説明会を実施し、学内介護福祉学科進学希望者や特定技能介護プログラム生に対し授業や補講等、各学科との連携を意識した取り組みができた。その結果、国際ビジネス学科進学者は 10 名、介護福祉学科進学者は 1 名となっている。

日本語能力の資格に関しては、JLPT 合格者が N1・1/1 名、N2・8/16 名、N3・27/46 名、N4・43/82 名、N5・3/8 名となり、昨年度の全国平均 38.8%を大きく上回る 53.6%となった。その他の資格としては、9 月に JTEST を準会場として開催し、準 B 級（N1 相当）4 名、C 級（N2 相当）1 名、D 級（N3 相当）8 名、E 級（N4 相当）4 名という結果となった。

今年度の結果から N1、N2、N3 合格者の比率が高く、授業内外での教育的取り組みの成果が出たと言える。一方で、入門レベルでの理解ができていない学生が数名いることが結果から見て取れた。成績下位者に対するクラス運営、教材選定、授業内容に改善が必要であると同時に、国際部との連携のもと、入国前の日本語レベルの確認方法を今後考えていかなければいけない。

卒業生については、過去の留学生の進学先であるアーツカレッジ神戸、エール学園、トヨタ名古屋自動車大学校、中央工学校等の教員から、学生の活躍と内定・就職の定期的な報告を受けている。いずれの学校からも、本学園卒業生が大変優秀であるとの評価を頂いている。

#### 3-④. 教育活動（加賀校・日本語学科）

評価

3-1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3-2	キャリア教育の視点に立ち、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
3-3	授業記録簿等を備え、実施した授業を適切に記録・管理しているか	4
3-4	理解度、到達度の測定と評価を適切に行い、その結果を適切に学生に伝えているか	4
3-5	授業評価の実施・評価体制が整備され、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
3-6	キャリア教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
3-7	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-8	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-10	教職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### <現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

専門学校アリス学園の介護福祉学科に進学するプログラムの学生が多く在籍しており、進学先さらには将来の就職先で、自ら主体的、自立的にものごとに取り組めるようになることを目指し、日々の授業や課外活動でグループ活動やペアワークなどアクティブラーニングを積極的に取り入れている。

介護福祉学科進学時まで身につけておくべき能力は何かを介護福祉学科教員の意見を参考に再検討し、日本語学科のどの時点で何ができるようになっていくかの目標を作成し、体系的に学ばせていくことを目指している。

教員の研修については、日本語教師の初任研修と主任研修を各 1 名が受講し、各個人のスキルアップ、さらには加賀校や教員個人の課題解決にもつながっている。

#### 4-④. 学修成果（加賀校・日本語学科）

評価

4-1	進学率・就職率の向上が図られているか	4
-----	--------------------	---

4-2	資格取得率の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	4
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

<p>介護の補講や先輩を招いての座談会、介護技術勉強会などを実施し、介護福祉学科進学に備えた予備教育を充実させ、学生たちのモチベーションの向上につなげている。</p> <p>日本語能力の資格に関しては、JLPT 前の対策授業をレベル別実施し、JLPT 合格者が N2・5/14 名、N3・26/45 名、N4・19/30 名、N5・1/1 名となり、昨年度の全国平均 38.8%を大きく上回る合格率 56.7%となった。その他の資格としては、9月にJTESTを準会場として開催し、C級(N2相当)1名、D級(N3相当)30名、E級(N4相当)22名という結果となった。</p> <p>資格取得率という点では、良い結果が出ていると見える一方で、取得しているレベルについては、介護進学プログラムの目標である N3 レベル相当が取得できていない学生もいるため、成績下位者に対するクラス運営、教材選定、授業内容に改善が必要であると同時に、国際部との連携のもと、入国前の日本語レベルの確認方法を今後考えていかなければいけない。</p> <p>令和3年度末に卒業・修了し、令和4年度4月に介護福祉学科に進学した学生を対象に面談を行い、授業で苦勞していることや入学前にもっと勉強しておくべきだと感じたことなどの聞きとり調査を行い、介護福祉学科進学の予備教育プログラムの改善を行った。</p>		
--	--	--

3-⑤. 教育活動（横浜校）

評価

3-1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3-2	キャリア教育の視点に立ち、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
3-3	授業記録簿等を備え、実施した授業を適切に記録・管理しているか	4
3-4	理解度、到達度の測定と評価を適切に行い、その結果を適切に学生に伝えているか	4
3-5	授業評価の実施・評価体制が整備され、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
3-6	キャリア教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
3-7	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-8	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-10	教職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

<p>4月生の入学が33名、10月生は38名となり、今年度は71名の在生学生となっている。校長についても5月から常駐の体制を得られ、10月からは非常勤講師の採用もあり、専任と力を合わせて学生指導、学校運営にあたっている。</p> <p>キャリア教育についての外部者の評価と言う点では、新任の校長が専門学校経験者のため、その目でいくつかの指摘と改善がなされている。</p> <p>授業のレベルは測定された学力にそれなりに添ったものとなっているが、自宅学習の時間の確保とその確認においてまだできることがあると思われる。また、オーバーワークや自転車事故（加害者）などの点で、人数の増とともに自然と課題も多くなってきている。</p> <p>現段階で指導に問題のある学生は出ていないため、適正校にふさわしい学校運営と自己評価している。次年度4月から受け入れ定員の増加の申請も見据えながら教育活動の継続をしていきたい。</p>		
---	--	--

4-⑤. 学修成果（横浜校）

評価

4-1	進学率・就職率の向上が図られているか	4
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	4
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3



<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

コロナ禍の影響を受け、令和3年度の入学者がいなかったことから、令和4年度末の卒業生はいない。そのためキャリア教育などのタイミングを計っており、年度が替わったあたりからの計画で進めている。ただし、日本語能力レベルがN3以上を目安として1年次末での専門学校や大学に進学する者もいる。

日本語能力の資格に関しては、JLPT前の対策授業をレベル別実施し、JLPT合格者がN1・0/2名、N2・6/9名、N3・18/22名、N4・2/10名となり、昨年度の全国平均38.8%を大きく上回る合格率60.5%となった。高いレベルにおいて一定の成果が挙げられていると自己評価している一方で、なかなか力の付きにくい学生たちもいるので、そちらへの指導にさらに努力していきたい。

出席率については16名が100%を維持しており、2名を除いて90%以上を維持している。出席不良者が発生した際には、指導面接を行い改善がされている。

**5. 学生支援**

**評価**

5-1	進路（進学・就職）に関する支援体制は整備されているか	4
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
5-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
5-4	学生の心身の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5-5	学生寮、学生の生活環境への支援は行われているか	4
5-6	保護者・関係者と適切に連携しているか	4
5-7	卒業生への支援体制はあるか	4
5-8	各種法令等の情報を把握し、学生に適切に周知しているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

令和4年度より介護福祉学科の学生数が増え介護のアルバイト先が不足することがあったが、アリス・スタッフの協力のもと、夏休みまでにはアルバイト先も確保できた。介護以外のアルバイトについては、これまで各学科と学生支援課の連携で管理をしていたが、就職先を意識しての連携が課題になったことから、年度内に管理機能を就職支援センターに移すことで体制を再構築した。例年同様に学生に対しての資格外活動違反の予防活動を行っているが、アルバイト先の企業に対しても就職支援センターより法令の周知と確認を取ることとしている。

令和3年度より開始した「アリスフードバンク」を継続し、各支援者様より定期的に野菜、果物、パン、衣類、生活雑貨等を頂き、経済的に厳しい学生への支援ができた。

**6. 教育環境**

**評価**

6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
6-3	防災に対する体制は整備されているか	3

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

学校での防災訓練及び消防用設備点検は毎年1回実施しているが、できれば年2回の防災訓練を実施したい。また学生寮での防災訓練も実施し、日頃から防災の知識を学生に指導していきたい。

実習先、インターンシップ先は、コロナ禍の時より受け入れて頂ける施設が増えてきているが、学生数の増加と共にもっと多くの施設を確保することが必要である。

**7. 学生の受け入れ募集**

**評価**

7-1	学生募集活動は、受入方針を定めて適正に行われているか	4
7-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
7-3	学納金は妥当なものとなっているか	4
7-4	学生募集要項が整備され、学費等の納付金や返還規定等が明確になっているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

国外学生募集活動については徐々に海外出張に行け始めているので、これまでの営業先を訪問し教育力や事務能力を再確認して良い教育機関から留学生を集めてきたい。これまでの方針と同じように他国籍化を目指しさまざま

な国への訪問を予定している。

国内学生募集活動については、介護福祉学科と国際ビジネス学科への進学希望者を募るため、主に国内日本語教育機関への一斉メール配信、電話営業、営業訪問、授業の LIVE 配信等の取組みを積極的に行ったが成果は上げられなかった。コロナ禍において、国内日本語教育機関に R4 年度卒業生があまりおらず、特にターゲットであった北陸地区、福岡地区、名古屋・岐阜地区においては1年進学を認めない他校の方針もあり、苦戦したことが原因と考える。その中でも、名古屋発の金沢観光バスツアーを国際ビジネス学科の教育活動の一環として開催したことは、他校へのインパクトも大きく、次年度につながる活動であったため継続したいと考えている。

国内の高校生を対象とした募集活動をはじめ、研修センター等の募集活動についても、Facebook の発信だけでは効果が見込めないこと、また情報発信をより分かりやすく伝えたいという観点から、1年をかけて HP の刷新作業を進めており、次年度春には完成を予定している。また、学生の声や学生の紹介関係を促進する活動も取り入れて Instagram や TikTok の活用なども開始している。

## 8. 財務

評価

8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで入国できなかった留学生が、入国することができ、授業料収入が増えた。新しい収入源として、委託訓練の観光コース、加賀校 PC 初級科の開設。企業の外国人就労者向けのオンラインを活用した日本語講座を行なった。新たな収入の柱として、DX 学校のフランチャイズ校に加盟し、次年度より企業向けへ DX 人材育成を行なっていく計画がある。その他の収入として、出版会社と契約し、本学園で開発した既存の教材の出版や、新たな電子書籍の監修等を行うことで、著作権料の定期収入が得られる体制も整えることができた。

今後の改善方策として、令和 5 年 4 月から、加賀校と横浜校が定員を増やし、運営できるように、申請を行う。学園・学生寮の水道光熱費が増加していることを受けて、エコ啓蒙活動も続けて実施していきたい。

## 9. 法令の遵守

評価

9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
9-3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
9-4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	4
9-5	関係省庁への定期報告・各種報告を遅延なく実施しているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

日本語学科・並びにアリス日本語学校横浜校は法務省の日本語教育機関の告示基準を遵守し、全学科に在籍する留学生についても法務省への在留管理に関する届出等を都度適正に行っている。介護福祉学科については、厚生労働省の定める養成施設としての設置及び運営にかかる指針を遵守している。

また、専門学校アリス学園並びに専門学校アリス学園加賀校については、石川県総務課との連携のもと専修学校として適正な運営を行っている。毎年、教育課程編成委員会並びに学校関係者評価委員会を実施して、委員会で話し合ったことを、学校関係者評価委員会報告書としてまとめて、HP に更新している。また、委員会内で、意見を頂いたことを次年度の学校運営に反映している。

SNS 等で動画や写真を使用するため、個人情報に関する保護に関する保護は、引き続き、入学時オリエンテーションで個人情報に関するアンケートを行い、撮影 NG の方は、SNS 等にアップしないように配慮している。

## 10. 社会貢献・地域貢献

評価

10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	4

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

昨年に続きコロナウィルスの影響を受けて活動は大きく制限され、例年行っていたボランティア活動や公開講座が中止となったが、制限された中でも金沢市・加賀市のそれぞれの地域行事に参加することができ、学園としても約3年ぶりに対面式での学園祭を実施することで地域の活性化に貢献することができた。

グローバル人材の育成、地域社会への人材輩出、地域のグローバル化促進、奨学金制度をはじめとする経済困窮者に対する支援等の社会貢献をするなど、各種教育活動・行事等を通じて、SDGs が目指す社会の実現に寄与している。また、石川県からの各種委託訓練を、研修センターとして積極的に受託するとともに、離職者・求職者に対する問い合わせや個別相談業務等も行っている。また、就職支援センターを強化することで、地域における人材不足を解決するための留学生採用セミナーの開催や合同求人説明会を介護福祉学科、国際ビジネス学科それぞれで行い、就職のマッチングを進める等、様々な面で社会貢献ができています。

**11. 留学生の在籍管理・生活指導**

**評価**

11-1	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4
11-2	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	4
11-3	日本の法令及び地域社会における規則等を遵守させる指導を行っているか	4
11-4	常に最新の学生情報を把握しているか	3

<現状・具体的な取り組み／課題・今後の改善方策／特記事項>

WSDB の導入で、在籍管理が容易になったが、各学科が受け持つ情報の入力の後手になっていることが課題となっている。データベースへの入力のタイミングに関する学内ルールを定め、適切な管理のもと常に最新の学生情報が管理できるようになる必要がある。

過去に一部の学生で資格外活動違反があったことが原因で、日本語教育機関として法務省より留学生の在籍管理に関して令和3年度より「適正校」の認可を受けられずにいたが、学生指導も徹底し、資格外活動の管理も厳しく行った結果、令和4年度秋の通知にて、再び「適正校」となることが出来た。また、横浜校についても新規校として3年間、在籍管理を問題なく運営した結果、最短での「適正校」の認可を受けることとなった。今後は、「適正校」としての維持を行うことが課題となる。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

専門学校アリス学園における自己点検・自己評価は、平成24年度から学内に「自己点検・自己評価委員会」を組織して実施しており、「自己点検・自己評価」の結果については、学校外の関係者による評価を受けるため「学校関係者評価委員会」を設置し、当委員会での評価並びに提言を学校運営の改善に繋げている。

なお、自己点検・自己評価項目については、文部科学省による「専修学校における学校評価ガイドライン」を準用しているが、金沢校・加賀校・横浜校の日本語学科は、法務省告示日本語教育機関でもあるため、一部の項目については、日本語教育振興協会が定める「日本語教育機関教育活動評価基準項目」を取入れ実施した。

総合的な評価としては、概ね令和3年度と同等または改善・向上した結果が得られている。学校法人として30周年を迎え、これまで得たノウハウや経験を積み重ねることで、教育機関としての体制や運営能力は確立しつつある。

留学生が多数在籍する学校法人として、全ての学校・学科において法務省より在籍管理の「適正校」としての認定を受けることができたことは評価に値すると考えている。また、在籍管理だけではなく、各学科における教育の質の向上も見られる。「自立性」「主体性」を意識した教育の展開、そのためのICTツールの導入などを、数年間継続して取り組んできているが、その結果として、各学科における資格取得率の向上が見られる。学生のキャリア支援の一環として資格取得にはこだわった教育課程の編成を継続していきたい。

地域・企業等における人材不足が社会の課題となる中、外国人留学生に対する期待はこれまで以上に大きくなっていると感じている。在学中のアルバイトをはじめ、国際ビジネス学科でのインターンシップ制度や介護福祉学科での実習など、地域企業・団体との連携、そして社会のニーズに応えられる専修学校として常に改善していく必要がある。そのために、就職支援センターの位置づけを明確にし、在校生のアルバイト管理から就職までを一貫して管理できる体制としていることは評価した。また、令和4年度は、介護福祉学科、国際ビジネス学科にてそれぞれ教育課程編成委員会を開催できたことも評価できる。

この数年間、日頃の学習成果や情報を公開する手段として、主にSNSを中心に発信を強化してきた。一方で、HPの不十分さについてはこの数年課題となっていたが、令和5年春のHP改定に向けて1年をかけて準備が進められている。より関係者や地域の人々に対して様々な情報を発信して行くことにより、学生募集活動における成果につなげることや保護者・関係者・地域社会からの評価を頂けることができるようにしたいと考えている。